

一人一人のよさや可能性を生かす援助の工夫

— その子なりの表現を大切にした「夏の遊びを楽しむ」活動を通して —

東風平町立白川幼稚園教諭 国 吉 和 美

内容要約

本研究では、一人一人のよさや可能性を生かすために、子供の動き、表情、つぶやきや思いを読みとり、受け止め、その思いを返してやる援助の工夫をした。実践では自分なりの表現を大切にした「夏の遊びを楽しむ」活動を通して、幼児理解を深め、環境の準備や教師の援助のあり方を試みた。

一人一人の幼児が、教師の援助の下で主体性を發揮して活動していくような保育の展開を図ったことで、自分らしい表現をしながら、友達のよさを認めたりする姿が見られた。

【キーワード】 一人一人を生かす保育 幼児理解 その子なりの表現 教師の援助

目 次

I テーマ設定の理由	1
II 研究の視点	1
III 研究内容	2
1 一人一人のよさや可能性を生かす基本的な考え方	2
(1) 一人一人を生かす保育とは	2
(2) 一人一人のよさを理解し、保育を展開するための「幼児理解の方法」	3
(3) よさや可能性を生かすとは	3
2 保育実践における「一人一人のよさや可能性を生かす」教師の援助とは	3
(1) 一人一人を生かす教師の援助とは	4
(2) チーム・ティーティング保育	4
(3) 子供の表現活動における援助の方法	4
IV 保育実践	5
1 活動名	5
2 活動設定の理由	5
3 週案	6
4 検証保育指導案	7
5 保育実践の結果	8
V 研究の成果と課題	10

〈幼稚園教育〉

一人一人のよさや可能性を生かす援助の工夫

— その子なりの表現を大切にした「夏の遊びを楽しむ」活動を通して —

東風平町立白川幼稚園教諭 国 吉 和 美

I テーマ設定の理由

今、幼稚園教育は、幼児一人一人の「よさや可能性」に焦点を当てると言うことが重要視されている。幼稚園教育要領の総則の中でも幼稚園教育の基本において、幼児一人一人の特性に応じ、発達の課題に応じた指導を行うようにすることが述べられている。その際、「教師は、幼児一人一人の活動の場面に応じて、様々な役割を果たし、その活動を豊かにしなければならない。」と強調されている。

「一人一人のよさや可能性を生かす保育」とは、「一人一人の存在を大事にする保育」「一人一人のその子らしさを生かす保育」である。つまり、その子のもっている「よさ」（持ち味）や可能性を引き出し、伸ばしていくことである。その背景には、「幼児一人一人の興味・関心や思考は、それぞれ異なり個性的である。」という子供観がある。「よさ」とは、その子どもの持ち味や特性をいい、個性そのものである。自らを成長させようとする姿を「よさ」として捉えることが、今、求められており、教師がよさを捉え直す心の広さと、発想の転換が必要とされている。幼児一人一人が自分のよさや可能性を十分発揮することでは、自分のことがわかりはじめ、自分の考え方や、夢や希望をもち、その実現を目指してよりよく生きようとする意欲、態度が育つかからである。

これまでの保育実践において、一人一人の育った環境が異なり、性格や行動の傾向、遊びの好みも、違うと受け止め、幼児の思いや願いを読みとり、その子らしさをそこなわずにありのまま受け入れることを大切にしてきた。その中で最も大切なものは、幼児理解であるという考え方の上で、一人一人の興味・関心、意欲などを理解しようと努め、発達やよさを捉えることにつなげてきた。その結果、幼児一人一人が教師や友達との関わりを通して、自分が受け入れられていると感じ、次第にその子らしさを発揮しながら、生活する姿が見られた。短所として捉えてきたことが、実は、成長の姿であり、一人一人のもつ「こだわりやつまづき」として捉える肯定的な捉え方が大切であると感じた。しかし、「より深い幼児理解（どのような思いをもっているか、どのようにして思いを実現しようとしているのか、どこで教師の援助が必要なのか。」「自分のよさを発見したり、友達のよさに気づいたり、取り入れたりしながら自己発揮していく保育実践」についての課題が残されている。

子どものよさを顕在化していくために重要な働きをしているのが「表現」である。毎日の生活の中で、笑ったり、泣いたり、話したりと生活そのものとして表現行為がなされている。表現はその子らしさをだす一つの窓口であると考え、「表現活動を通して、よさや可能性を引き出し、より充実し、一人一人の自己発揮を図ること」をねらいにし、教師の援助を工夫したい。

そこで今回は、これまでの取り組み（よさを捉える）をさらに生かすことを表現活動を通して考えてみることにした。本活動においても、興味のある「水遊び」「シャボン玉」「虫取り」「七夕」には、好奇心旺盛で工夫したり、試したり、追求したりと夢中になる姿が見られる。その中から、感じたことや考えたことを自分なりに表現することで、自分のよさを発揮しながら、楽しく園生活を過ごしてほしい。毎日の生活の中で、自分の保育を振り返る時、子供との生活のまっただ中にいる時は、直感的に関わっていることも多々ある。20人の子供がいれば、20通りの援助がある、というが、実際に保育をしていると、はたして一人一人に応じた援助をしているのだろうかと考える。そこで今回は、その子らしさを大事にしながら、一人一人のよさや可能性を生かす援助のあり方を研究したいと本テーマを設定した。

II 研究の視点

- 1 幼児の発達やよさを捉え、その子なりの表現を大切にした「夏の遊びを楽しむ」活動を通して、一人一人のよさや可能性を生かすことにより、集団の中で自己発揮させるための援助の工夫を探る。
援助の視点を具体的保育活動の中で次のように捉える。

援助の視点

○視点① その子なりの表現を認めて生かす援助

- ・一人一人のものの見方や感じ方、考え方を認めて、表現することへの自信をもたせる言葉かけ
- ・自分らしい表現をすることの喜びと自信につながる言葉かけ
- ・シャボン玉の大きさ、やり方、色などを工夫していく言葉かけ

○視点② 様々な表現活動を引き出すための環境構成の工夫

- ・幼児のイメージが広がるような材料の工夫
- ・一人一人の思いにそった表現ができるような工夫
- ・身近にある材料をうまく使うよさに気づかせる

○視点③ 一人一人のよさや可能性を生かす援助

一人一人のよさを生かす場は、発表の時だけでなく、毎日の生活の中の日常的な場面で行う捉えているので、機会をみつけ、援助することで、よさを生かすことができると考える。

- ・見たり、聞いたり、自分がやったことを振り返らせる話しかけをして、自分や友達のよさに気づくようにする。
- ・いろいろな表現の仕方に触れ、いろいろなやり方に気づく中で自分とは違う友達のよさに気づくようにする。

III 研究内容

1 一人一人のよさや可能性を生かす基本的な考え方

「一人一人を生かす保育」とは

幼児の実態に合わせ、一人一人が「生き生きと活動し、自己発揮する姿」を実践することを考えている。その場合、保育者の意図どおり活動させる画一的な保育から、子供一人一人の興味、関心や活動の姿を認め子供が自分たちで「遊びをつくる」ような保育へと質的な転換を図ることが大切である。一人一人の子供を「個性的表出」（その子らしい感じ方、見方、行い方）できるよう育てていくことである。すべてを子供に任せてしまうのではなく、課題、友達、素材、場所、表現方法等を自分の意図に応じて自分で選ぶ力（選択力）や、自分がしたい遊びを工夫したり、自分の気のすむまで遊びきる力（追求力）友達と関わって遊べる社会性（友達と関わる力）を発達に応じて身につけることをいう。



このような考え方をもとに、「一人一人のよさを生かす保育」を幼稚園の実態をふまえ、次のように捉え直した。「一人一人のよさを生かす保育」とは、その子らしさが発揮できる保育活動の中で、自分の興味・関心、願いや思いに基づいて、追求したり、表現したりすることが周りから認められることがある。保育活動の中で、一人一人のよさや可能性を生かすとは、十分自己発揮できる場を保障することと捉えている。

保育活動の実践の中では、その子らしい表現ということを下記のように捉えている。

感じたことを表現することは、一人一人違い、その子なりの表現の仕方が見られる。どの表現がいいということではなく、そのどれもが、まさに心の表れとして大事にすることが必要である。これまで、ともすると表現は、表面的なものに目を向けがちだったが、その子なりに表現したいことが、十分に表現されればいい。幼児は様々なことに心を動かすと、自分なりに感じたことを表す。現実と非現実、過去と現在、自分と他者といったかがみを意識せずに、好きなようにイメージの世界を楽しむ。こうした表現する幼児の姿を捉えて、新幼稚園教育要領の、領域「表現」において「感じたことを自分なりに表現して楽しむ」など自分なりの表現を楽しむことを強調している。幼児期において、自分なりの表現を楽しみながら、自らの世界を形成することが、その後の発達に重要と考えるからである。その子なりの表現を認めるということは、その子なりの感じ方や見方、考え方を大事にすることである。

表現で何を育てるのかについては

- ① 子供が自分の周囲の様々な刺激や、体験の中で、物を豊かに感じ取る【感性】を育てる。
- ② 自分なりの感じ方、考えをもって、それを外に表そうとする【意図、意志】を育てる。
- ③ いろいろな手段で表してみることを通して物への【認識】や表現の【技術】を育てる。

(2) 一人一人のよさを理解し、保育を展開するために

一人一人一人のよさや可能性を生かすために、教師が適切な援助を行うためには、何よりも一人一人の子供に対するしっかりとした理解がなければならない。それは、たとえ同じ遊びをしていても、そこで感じているもの、考えているものは同じではないということを認識し、それぞれの内面に眼を向けることである。しかも単に把握するということにとどまらず、その子の喜びを喜びとし、悲しみを悲しみとして感じられるような共感的理解がなければならない。そこで次の視点から「幼児理解の方法」をおさえることにした。

【幼児理解の方法】

生活を共にする中で	②省察で	③記録の中で	④多くの目で	⑤家庭との連携	⑥調査で
遊びながら、話 し合いながら、 食事をしながら、 行動や言葉 に触れ、内面を 理解する。	一日の保育が終 わった後、行動 を思いおこし、 気持ちや行動の 意味を理解す る。	エピソードで、 週案、日案で個 人票で変化を読 みとる。教師自 身を読みとる。	他の保育者と話 し合い、情報や 見方を取り入 れ、多面的な視 点で捉える。	おたより帳 クラスだより 家庭訪問 個人面談 保育参加	遊び、興味・関 心、友達関係、 基本的生活習慣 を調査したり、 調べたりする。

(3) よさや可能性を生かすとは

よさとは、その子の持ち味であり、思考や判断、表現などにおいてその子らしくいられることである。

可能性とは、本人の努力や体験、教育や望ましい環境等によって発揮したり、よさになり得る資質や能力のこという。

生かすには

一人一人の個の存在を大切にし、集団との関わりの中で個を尊重し、あるがままの姿を捉え
よさや可能性を伸ばすことが大切である。

今求められている「個性を生かし、自ら学び自ら考える力」等の「生きる力」を育成するという観点からみても、「一人一人のよさや可能性を生かす」ということは重要なことである。この観点から幼稚園教育を見たならば、「幼児一人一人の考え方や様々なよさや可能性を生かした保育活動の充実が重要になってくる。

2 保育実践における「一人一人のよさや可能性を生かす」教師の援助とは

次に保育者に求められるものは、それぞれの幼児が、自らの力で伸びようとする力に対して、信頼をいだかせることが大切である。一人一人のあり方を大切にし、それぞれの発達の特性に応じた教育を可能にする条件の一つが「教師の援助」である。子供自身が求めているもの、活動の中で考えていること、いだくイメージなどを捉えながら、教師の適切な関わりをすることは大切なことである。教師は、保育活動において、登園から降園まで、常に幼児一人一人を認め、励まし、共感し、見守り、手を貸したり、目でうなづいたりして対応する。このような場合重要なのは、一人一人への対応が、一人一人の幼児にとって、適切であったかどうかということである。保育中における幼児一人一人への教師の関わり方、援助について考える。

例えば、どうしていいのかわからない子がいる時、教師が「こうしたら。」とやさしくきっかけをつくってあげる。やり方を教えてもらった子は、「うん、わかった。」と自ら挑戦していく。先生が見守ってくれる、温かい視線を背後に感じるということで、幼児が意欲をもつ。幼児は活動の過程の中で、教師のこうした援助を受けて、自ら学ぶ意欲を高めていく。しかし、むやみに手を貸したり、教えたり、励ましたりして、一人一人の幼児に適切な援助をすることが大切である。

(1) 一人一人のよさや可能性を生かす援助とは

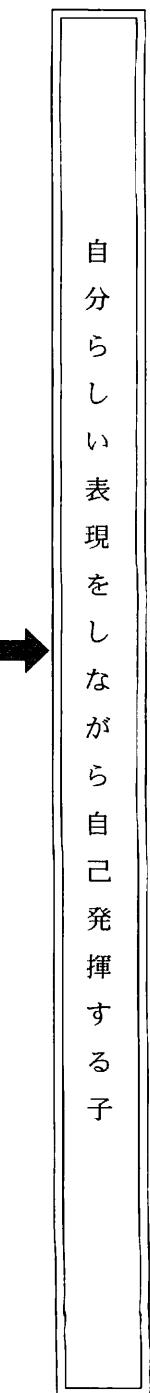
- ① 幼児の個性的なよさを育成する指導目標をもとに
- ② それぞれの特性によく見合った教材を選び
- ③ 一人一人がその子らしい長所を活用できるような援助の方法を用いて援助することである。

(2) ティーム・ティーティング保育

幼児のよさや可能性を高めるためには、教師自身のよさや特性を生かす工夫をすることも大切である。本園では学級での指導を基本しながら、活動の内容や幼児の遊びの展開を予想し、時に応じて学級の枠を越えた柔軟な指導方法をとっている。その際、幼稚園全体の教師が協力し、全職員で幼児一人一人を育てるという視点をもつ。そのような援助することは、安全性に加えて、一人一人を見る上でも効果的である。複数の教師で援助するということは、教師一人で援助するよりはちがったよさが発見できる。実践にあたっては、次のような教師間の共通理解を図った。

- 現在の幼児の姿と育てたいことは何か ○ 誰がどこで、どのような援助が必要なのか
- 教師自身もそれぞれの持ち味を保育に生かす ○ 保育の終わった後、他の保育者と話し合う

(3) 幼児の表現活動に寄り添う援助の方法

幼児の思い	援 助 の 方 法	めざす幼児像
<p>おもしろ そうだ</p> <p>やってみたい</p> <p>楽しいな</p> <p>できそうだ</p> <p>どうやって やっているか ぼくも やってみよう</p> <p>もっと他の やり方もあるのかな</p> <p>できた おもしろい</p> <p>〇〇は すごいね</p> <p>〇〇は やさしいね</p> <p>〇〇は おもしろい</p> <p>今度は〇〇 しよう</p>	<p>【援助の基本】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に関わり、何を求めてるのかを感じ取る。 ・子供たちの応答をよく見て、自分の援助の適切性を判断する。 ・活動の流れや変化や、個々の子供に応じて柔軟に変えていく。 ・自分の力で楽しく充実した活動を展開できるように援助する。 ・それぞれの子供のペースや発揮できる力に合わせていく。 ・回りの保育者のアドバイスを受けることにより、創造的なものにする。 ・回りで共に生活している子供たちも援助者となれる。 ・どの子もみんなで育ち合っていこうとする姿勢を持たせる。 <p>【何を援助するのか】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のペースで遊べるように、温かく見守り安心感をもたせる。 ・それぞれの持ち味を大切にして、存在感をもたせる。 ・自分の思いが主張でき、自分なりの方法で解決し帰属感をもたせる。 ・子供の発見や気づきに、ともに心を動かし好奇心をもたせる。 ・なぜ、どうして、本当?不思議というように、保育者自身も共に疑問をもち、児童に探求心をもたせる。 ・子供が現したいと思ったことを大事にし、意欲をもたせる。 ・幼児なりの発想や考えを大切にし、考える力をもたせる。 ・心を動かす体験を重視し、その感動やイメージを自分なりに表現する力を育てる。 ・子供たちの感じたことにふれて共感する力を育てる。 <p>【援助の方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動き・・・・・体を動かし一緒に遊ぶ ・表情・・・・・やさしく見守るまなざし、笑顔 ・手伝う・・・・・子供のペースで ・教える・・・・・やりたいことを ・言葉かけ・・・・きっかけになる言葉をかける ・うなづき・・・・温かいまなざし ・道具の出し方・どのくらいの材料をどこにどのように出しておくか 	<p>自分らしい表現をしながら自己発揮する子</p> 

IV 保育実践

1 活動名

夏の遊びを楽しもう

2 活動設定の理由

(1) 教材観

暑い日が続くようになり、いよいよ夏の到来。この時期は、暑さが厳しく気温も30度を超えることが多い日々が続くが、この季節の特徴を生かした遊びを十分経験できるようにすることは大切である。夏の時期にしかできない「水遊び」や「セミとり」「七夕」に十分取り組ませ、一人一人の幼児に開放感を味わわせ、思いつきり自分をだしてほしい。また、一人の子の気づきが友達の気づきとなり、お互い刺激し合いながら、友達のよさに気づいたり、認めたりする態度につながるようにしたい。

本活動「夏の遊びを楽しむ」では、幼児の大好きな「水遊び」「セミとり」「七夕」「シャボン玉」を取りあげている。幼児達が興味・関心をもつ夏の遊びに取り組ませることによって、自分なりの動きを十分だして遊ぶ楽しさを感じさせたい。思いつきり遊ぶ自己充実の喜びは、友達との関わりや言葉を育てる。また、遊具や用具を取り扱う過程では、工夫や発見の喜びが味わえる。また、友達と話したり、協力したりする中で、最も興味がある「シャボン玉」「七夕」に取り組むことによって、一人一人のよさや、友達のよさにも目を向けさせていきたい。

(2) 幼児観

夏に対する子供の声

夏って・・・「暑い」「プールや海」「アイスクリーム」「クーラー」
夏の遊びで一番好きなものは・・・「プール」「セミとり」「シャボン玉」「七夕」
夏と冬のどっちが好き・・・夏 23人 冬 3人
どうして夏が好きなの・・・プールに入れる。すいかが食べられる。せみとりができるから
どうして冬がすきなの・・・きれいだから。
シャボン玉やったことある子・・・全員

これらのことから、本学級の幼児たちは、毎日の生活の中で夏の気温や変化や虫、遊び等の変化に気づいていることがわかる。水遊びに関しても、年少の頃の「サマーキャンプ」保育園の頃の「プール遊び」を全員が経験している。また、虫に関しても、ほとんどの子がセミ取りをしたり、触れたりしている。その反面、外で体を動かすことを「暑いからいや」と言って、ほとんど自分からは外に出ない子がいる。

(3) 指導観

その子なりの感じ方、見方、考え方を大切にした上で豊かな表現する活動につながる援助が、幼児一人一人のよさや可能性を生かし、集団の中で自己発揮する援助と捉えている。本活動において、興味のある「水遊び」「シャボン玉」「虫取り」「七夕」には、好奇心旺盛で工夫したり、試したり、追求したりと夢中になる姿が見られる。その中から、感じたことや考えたことを自分なりに表現する楽しさを味わいながら、自分のよさを発揮し、楽しく園生活を過ごしてほしいと思う。そして、「七夕」では、昔から伝えられている幻想的なイメージを大切にするために、夢を広げ、想像できるように話の内容や絵を工夫した。そしてスケールの大きさを盛り上げるために七夕伝説の話を「手作りビデオ」にして、幼児が興味を持ちやすいようにし、進んで活動に関わるようにさせたい。

表現活動では、幼児一人一人の感じ方、見方、考え方を認め、一人一人の表現のよさを生かしていくよう援助し、それが周りの友達にも伝わりやすいような環境づくりをすることが大切だと考えた。

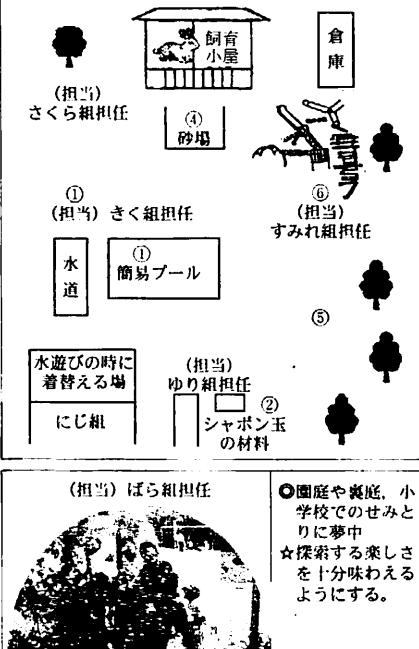
それぞれの幼児なりのイメージを大切にし、多様な表現方法に気づかせたりすれば、更に発想が広がり、自分なりの表現を楽しむことができると考える。一人一人の心の中にわき起こったイメージを自分なりの方法やアイディアで表現していくことの喜びを味わわせ、自分のよさや友達のよさに気づかせたい。

3 週案 第13週 (年長)

白川幼稚園

発達の姿	<ul style="list-style-type: none"> ○一緒に遊ぶ友達（3,4人）が決まってきており遊びや生活の中で友達のよさや周りの状況が見えてきている。 ○教師と関わりながらではあるが、捕まえたバッタを飼育したいと思い図鑑で飼育の仕方を調べたり、えさは何を食べるのか調べる等活動に意欲が見られる。 	<p>2 日 (月)</p> <p>3 日 (火)</p> <p>4 日 (水)</p> <p>5 日 (木)</p> <p>6 日 (金)</p> <p>7 日 (土)</p>	<p>セミ、虫、見つけた！にがさないぞー</p> <ul style="list-style-type: none"> ○セミの声に誘われて、木に登って捕ろうとしたり、捕虫網を持って追いかけていく姿が見られる。捕らえた昆虫の名前を図鑑で調べたり、えさや飼育の仕方を調べ、教師と一緒に観察していく。 ○小学校や園外に出かけていく時は 安全面に十分配慮する。 ○各学級に分配した道具類（捕虫網、観察ケース）を大事に扱ったり管理ができるよう学級カラーや学級名で提示する。 <p>★昆虫を見つけた時の喜び捕まえた時の嬉しさ、逃がした時やなかなか捕まえないときのがっかり感を教師も一緒に共感していく。</p> <p>プール、水遊びをしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小学校のプールで教師や友達と一緒に顔つけや2人づなぎ、ハイハイ、ジャンプ等、いろいろな水の遊びを楽しむ。 <p>★水遊びは自我を発散させられる活動なので、材料、用具等を準備し、満足するまで取り組ませる。</p> <p>七夕飾りを作って遊ぼう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○短冊に願いごとを・・・ ○折り紙を使って ○星の踊り・宇宙ごっこ ○七夕伝説のビデオを見る <p>★夏の夜空や空の高さ、星への憧れ夢などが存分に味わえるように意識して関わる。</p> <p>★暑さが増し食欲が落ちてきた子が多くなってきたので、がんばりシールを取り入れることで、頑張って食べようとする子を増やす。</p> <p>シャボン玉、色水をつくろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○草花等から色水ができるのでいろいろ試そうとしている。 ○シャボン玉を吹いたり、いろいろなやり方で試したりして楽しむ。 <p>★一人一人のやり方を認め、楽しさに共感する。</p> <p>★思いやイメージを温かく受け止める。</p> <p>★思いやイメージが実現できるように、材料、用具等を準備しておく。</p> <p>★共にシャボン玉遊びを楽しむようになる。</p> <p>★自分のよさや友達のよさに気づかせる言葉かけの工夫をする。</p> <p>★週末は、各自の靴箱やロッカーの片づけ、拭き掃除等を行い、気持ちよく翌週が終えられるようにする。</p>
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○感じたことや考えたことを、自分なりに表現して楽しむ。 ○夏の遊び（水遊び、色水、シャボン玉、セミ取り、虫探し）を十分に楽しむ。 ○夏の星、空、虫などに興味をもち、物語の世界やイメージの世界を広げファンタジーの世界で遊ぶことを楽しむ。 	<p>3 日 (火)</p> <p>4 日 (水)</p> <p>5 日 (木)</p> <p>6 日 (金)</p>	<p>★一人一人のやり方を認め、楽しさに共感する。</p> <p>★思いやイメージを温かく受け止める。</p> <p>★思いやイメージが実現できるように、材料、用具等を準備しておく。</p> <p>★共にシャボン玉遊びを楽しむようになる。</p> <p>★自分のよさや友達のよさに気づかせる言葉かけの工夫をする。</p> <p>★週末は、各自の靴箱やロッカーの片づけ、拭き掃除等を行い、気持ちよく翌週が終えられるようにする。</p>
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○生活の流れの中で、暑さに負けないで自分から外で遊び楽しみ生活しようとする。 ○水遊びやプール遊びを通して約束や決まりに気づく。 ○先生や友達からの刺激を受けて、自分なりのアイディアを遊びに取り入れて表現する。 ○いろいろな素材に触れ、見立てたり工夫したり追加したりする。 ○笹飾りを作ったり、七夕や星に関するビデオを通して、夢を広げる。あるいは、遊びの世界を広げていく。 	<p>7 日 (土)</p>	<p>★夏の夜空や空の高さ、星への憧れ夢などが存分に味わえるように意識して関わる。</p> <p>★暑さが増し食欲が落ちてきた子が多くなってきたので、がんばりシールを取り入れることで、頑張って食べようとする子を増やす。</p> <p>★週末は、各自の靴箱やロッカーの片づけ、拭き掃除等を行い、気持ちよく翌週が終えられるようにする。</p>
環境の構成	<ul style="list-style-type: none"> ○水への恐怖感や個人差を配慮して、その子なりの水遊びの仕方を認め、水遊びを楽しくする用具や素材（ペットボトル、シャンプーの容器）等必要に応じておいておくことから、作ったり描いたりする活動が展開できるように工夫する。 ○せみやバッタ等の昆虫類に興味をもって関わっているので、捕虫網や観察ケースを多めに用意する。 		

4 検証保育指導案 予想される生活の展開

ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> ○感じたことや考えたことを、自分なりに表現して楽しむ。 ○気の合う友達の側で、自分なりのやり方を楽しむ。 ○七夕に関心をもち、物語の世界の楽しさを味わう。 	内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の感じたことを言葉や動きなどで、表現したり、描いたり作ったりする。 ・喜ばないで、自分から動いて生活しようとする。 ・汗をふく、帽子をかぶるなど、夏の健康管理の仕方に関心をもつ。 	ゆり組 男 15名 女 14名 計 29名 担任 国吉 和美			
				<ul style="list-style-type: none"> ・星、空、虫などに興味をもち、物語の世界の楽しさを味わう。 			
生活の流れ	予想される幼児の活動の展開			◎ 幼児の行動	☆ 環境構成	★教師の援助	よさを生かす場面
9:15 ○朝のひととき	<ul style="list-style-type: none"> ○クラスのみんなとの雰囲気中仲間意識を感じながら楽しむ。 声を合わせて歌う楽しさを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ★「シャボン玉」を歌ったり、昨日のシャボン遊びの話をしたりして今日の活動に期待をもつようする 	<ul style="list-style-type: none"> ★室内にこもりがちな幼児には、声をかけて、戸外での遊びに誘う。 				
9:30 ○夏の遊びを楽しもう							
①水遊び ②シャボン玉 ③せみとり ④砂場 ⑤木登り ⑥固定遊具			<p style="text-align: center;">夏の遊び場の環境</p> 				
10:20 ○片づけ	<ul style="list-style-type: none"> 「暑いからプールに入ろう。」と友達同士で説明し合い触れ合って、水の感触、開放感を味わっている。 						
10:30 「七夕伝説」のビデオを見る	<ul style="list-style-type: none"> ★目もまた遊べるようにそれぞれの遊びに使った物を種類別に片づけることを幼児と確認する。 ★暑くなってから、汗をふいたり、衣服を脱いで着替えたり等の生活習慣はまだ個人差があるので、援助を必要とする子には声をかける。 ★外でいっぱい遊んだ後は、片づけが終わると部屋で黒豆餅を食べてエネルギー補給をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○にじ組でビデオを見る。 皆が同じものを見る共有の時間 ★星空の神秘性に感動すると共に、ファンタジーの世界に没入するような教材の工夫、話し方、室内の場所、ゆかたを着る等、雰囲気等に工夫する。 ★「七夕伝説」のビデオを見た後で作ってみようという気持ちを起こすことが予想されるの材料を準備しておく。 					

シャボン玉 とばそー

昨日の遊びの流れから、今日はこんな「よさ」がみられるかな →

- ・じっくり試す
- ・いろいろ工夫
- ・新しい発見
- ・友達を認める

(ねらい) ○友達と一緒にシャボンを作ったり、見せたりしながら、自分や友達のよさに気づく。
○自分なりのやり方、シャボン玉づくりの楽しさを感じながら、いろいろ試そうとする
というねらいを指導するには、次の環境が必要となってくるので準備しておく。

《環境の構成》

- ☆シャボン液とシャボン液を作る石鹼。
- ☆シャボン液を入れた大きな容器(5)と机(4)必要に応じて場を広げる。
- ☆シャボン玉を吹く材料（ストロー・牛乳パック・トイレットペーパーのしん、わりばし・ざる・ペットボトル（大・小）・カッター・はさみ・セロテープ）
- ☆認めたり、共感する保育者と友達

●シャボン玉はテラスに材料を準備しておいて、子供たちと一緒にシャボン玉を吹く場所に移動を設定しよう。2階のテラスから園庭へ移動するだろう。

こんな活動がはじまるだろう。そしたらこんな援助をしよう 「よさを生かす場面」

いろいろ試している子には	追求している子には	自分や友達のよさに気づく
<ul style="list-style-type: none"> ストローの使い方の工夫 ○ストローをたくさん使って吹いたら、ブクブクしたり ○はさみで先をきつたり牛乳パックで吹く 	<ul style="list-style-type: none"> ○牛乳パックでどんな形のシャボン玉ができるのか、くりかえし吹く子 ○はさみで先を切ると、本当に大きいシャボン玉ができるのか実際にやる子 ○試したいことに使う材料を探している子 ○いろいろなやり方に関心を持つ子 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えや思いを、相手に伝たり、相手の思いを聞き入れる。 ○それぞれのやり方でシャボン玉を吹いて、それぞれのよさを認める。 ○友達と協力しあって、材料の準備や片づけをする。 ○友達に認められることで、喜んだり自信をもつ。
<ul style="list-style-type: none"> ★試したり、工夫したりすることが十分できるように教材の種類、教材を置く場所活動の様子を見ながら設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ★「追求」する姿が見られないので、追求していくことのすばらしさを伝え見守り必要に応じて手伝ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ★シャボン玉ができたことを認めたり、新しいやり方を考えた時、周りの子に知らせる。
<ul style="list-style-type: none"> ●こんな言葉かけをしよう 「いいこと考えたね。」「おもしろいね。」「どんなふうにするのかな。」「〇〇のを見てごらん。」「こんなやり方もあるよ。」「これを使ってごらん。」「これを使うとこんなのができるんだね。」 	<ul style="list-style-type: none"> ●こんな言葉かけをしよう 「どんなシャボン玉ができるのか、一生懸命だね。」「自分がやりたいことや、考えてることを、あきらめないでやれるっていいね。」 	<ul style="list-style-type: none"> ★一人一人の取り組みを認めたり友達のものを見たり、教えたり互いに刺激しあっている姿を知らせる。
		<ul style="list-style-type: none"> ●こんな言葉かけをしよう 「〇〇みたいにやると、できるってよ。先生もやってみよう。」「〇〇はおもしろいこと考えていたね」「友達と同じやり方だね。」

【 全体的配慮事項 】

- ★一人一人の思いや考え方を受け止めながら、個、グループ、学級全体によさを伝え、友達の動きや学級の一員としての意識に気づかせる。
- ★ちょっとしたことでも見せるよい面を教師がどう受け止め、対応していくかは、幼児同士の認め合いにも影響をもつので、よい面を見つけること、話しかけの仕方に配慮する。
- ★児童がしている遊びに教師も参加し、考え方を伝えたり、一人の仲間として提案する。

5 保育実践の結果 特に本研究では、シャボン玉遊びを中心に行った。

(1) 視点①の検証その子なりの表現を認めて生かす援助

それぞれの幼児たちの感じたことやイメージなど、どんなささやきでも、その気づきを受け止めた。幼児の発想のよさを、幼児と共に感動し、認める援助をおこなった。また、幼児同士でよさを認めあえる雰囲気をつくり、友達のよさを発見したり、認めあえる意識づけをした。一人一人がそれぞれの思いで、それぞれのペースで遊びが展開できるように、その子なりのよさを認め生かす援助をした。

◇幼児の活動 その子なりの表現

◎読みとり

○よさ

教育的意義

★ 教師の援助

自分の考えたことを様々な方法で表現する

- △いろいろな発見をしていたZ H男
 - ①Z H男：「手でシャボン玉できるよ」
T：「どうやってつくるの」
Z H男：「こうやってつくるんだよ」とやり方を見せる。
 - ②「ストローの大・中・小を比べ試す」
③ストローをはさみで切る。
T：「おもしろいね。どうしてこんなことをするの」
Z H男：「こんなにしたら大きいシャボン玉ができるんだよ」

- ◎制作等でのアイデアの豊かさがシャボン玉づくりでも生かされているな。

- ◎制作でやりたいことを追求していくことの楽しさを経験しているので、新しい発見をして、更に遊びを楽しもうとしているな。

- ◎これまでの経験やテレビ等で見たことがきっかけで、シャボン玉に興味をもち自分で試しているんだな。

- 発想豊か

- いろいろなやり方を発見し試している。

- いろいろな物への認識

- 一つ一つの遊びを試したら手を洗いに行く。
(生活習慣の定着)

★遊びの共感（理解者として）

・「どういう方法でつくるの？」と手をぬらしてしめられて、Z H男の手と比べ、Z H男と同じ行動をとる。

★友達との関わり（仲間として）

Z H男みたいにしたらほら先生もできたよ」と周りの子に知らせる。

★「M T男がZ H男みたいになると大きいシャボン玉ができるってやっているよ。」とZ H男や周りの子にわかるようにする。（Z H男の自信となるように）

★教材の工夫（援助者として）

H男のやりたいことができるようにはさみ、ストローの置き場所は活動の様子を見ながら設定する。

「自分もやってみたい、おもしろそう」と心を動かす

- △「Z H男がこんなふうにしたら大きいシャボン玉ができるってよ」とストローの先をはさみで切り始める。

・次にペットボトルでシャボン玉を吹く。

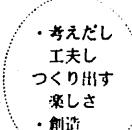


- ◎T M男は友達のやっていることにも目を向けはじめてきたな

- ◎新しいT M男の発見だ。

- ◎いいとこ見つけた

- 友達のやっていることを実践し、自ら考え、判断している。



★「T M男がZ H男みたいにすると、大きいシャボン玉ができるってよ」とZ H男や周りの子にわかるようにする。

★ストローだけでなく、ペットボトルにも取り組む姿を認める。

心を動かされる

- △吹けない子には
黙って友達の吹いているのを見ている子に

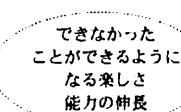
- ◎本当はやりたいはずなのに
○吹くことに抵抗があるのなら
ブクブクから始めよう。

- ◎安心してやり始めたな。

- 友達のやっていることに関心をもつ。

- できないでもやってみようとする意欲。

- 自分なりのやり方を見つけた。



★方法を気付かせる（モデル）

「ほら、できたよ。見て。」と吹いて見せる。

★励まし（仲間として）

「ブクブク上手だね。」「先生もやってみよう。」「みて○○ちゃんができたよ。」と知らせる。

素材を生かした表現

- 昨日からもぐもぐ牛乳パックで吹いている

△じっくり追求している子には

M K子：「牛乳パックのシャボン玉すごいよ。」

M N子：「大きいよねも。」

K K子：「M Kちゃんすごいよね。」



- ◎M Kの集中力はすごいな
新しい発見だ

- ◎友達を認めてい

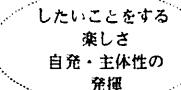
- るな。

- 意欲がある

- 追求している

- 試行錯誤

- こだわりが生まれる



★こだわりをもって一生懸命関わるように、やっていることを振り返らせるようにする。

★認める（理解者として）

「とても一生懸命だね。」

「本当にね。○○ちゃんの大きいのや長いのができるね。」

自分のイメージを動きや言葉で表現

△発想豊かな表現

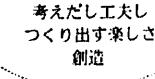
想像力豊かなO K男が、最初石鹼液だけで吹いてみるが、うまく吹けないので「水色」の色水とまぜる。それでもできないので今度は「ピンク」の色水を混ぜるが思っているようにはいかない。

- ◎想像力豊かなM O男にとってはシャボン玉は「虹色」のようないろいろな色のイメージがあるようだ。石鹼液ではできないので色水を使って試しているな。

- 想像力豊か
シャボン玉をいろいろな色でイメージしている。

- 追求する
イメージしたことを実際に試している。

- やりたいことや、使いたい物を言葉で表す。



★行動の意味を理解する

○想像力豊かなO男らしい発想を認め、見守る。

★遊びに共感（理解者として）

「はじめてみたよ。どんなシャボン玉ができるのかな」「おもしろいことしているね」

★色の美しさが出せるような表現方法への援助。

【考察】Z H男のようにこれまでの経験等を元に、具体的に言葉かけをすることで、遊びがおもしろく展開しているM K子のように一つのことに目を輝かせ、夢中になって取り組む姿はすばらしい。「どうやったらいいの」等と試行錯誤しながら、じっくり取り組み大きいシャボン玉や長いシャボン玉ができたとき、一瞬の喜びや驚き見られる。

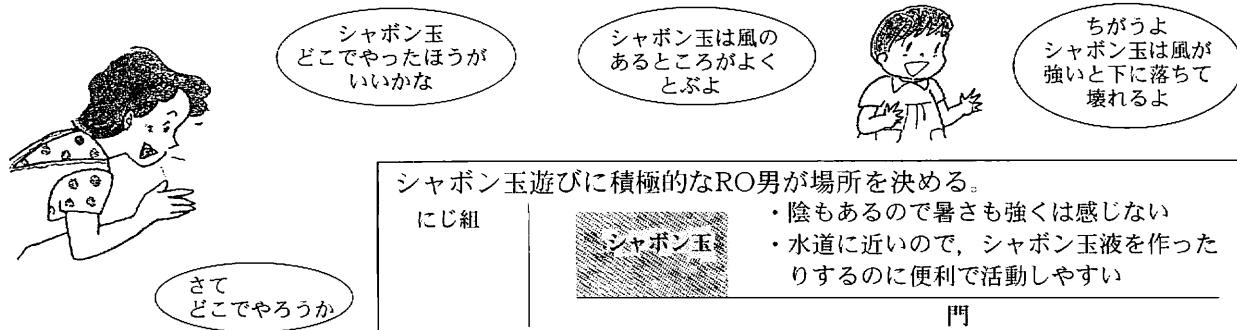
又、友達のよさを取り入れながら、自分の遊びを楽しむM T男。子供同上のアドバイスが生かされる場となっている。

●教師が一人一人の表現の仕方に関心を示して個に応じた言葉かけをすることは、その子の性格や遊びへの取り組みを等も把握しておくことが大切である。声をかけたり、認めたり、共感することで、幼児にとっては大きな励みとなり、活動が深まったり、広がったりしている。その子なりの表現追求の場においては、子どもたちが安心して喜んで思いを表現する意欲が見られた。その子なりのやり方を認める教師の援助のタイミングと幼児理解がいかに大切であるかを感じた。

(2) 視点②の検証 様々な表現を引き出すための環境構成の工夫

材料の準備は、幼児の表現を引き出し、やりたい意欲や新しい発見を生み出す。幼児たちのシャボン玉への思いを受け止め、実現できるように環境を幼児と共に作りだし、一人一人が自分のやりたいことをじっくりできるように、そして、保育者や友達と一緒に遊びを楽しみ、お互いに刺激しあえるようにじっくり遊び込める時間、空間を確保し、願いが実現できるようにする。幼児の願いから教師の意図をもち、材料や用具の配置を考えたことで、多様な表現活動に気づき、発想を広げ自分なりの表現を楽しむ姿となる。

①子供たちに風との関係にも気づいてほしいと思い、まず導入で「シャボン玉」をやる場所を決める。



②シャボン玉をとばす材料を聞く

T：「何でシャボン玉とばすの」

IK男：「ストローいっぱいでもできるよ。」
NT男：「わりばしでもできるよ。」
MK子：「空き箱でもできるよ。」

③どんなシャボン玉をつくりたいか聞く

T：「どんなシャボン玉つくりたいの」

HA男：「大きいシャボン玉つくりたい。」
KK子：「いっぱいつくりたい。」
TN男：「ぞうさんみたいに大きいの。」

それぞれの思いがかなうように、試せるように、それぞれ持ち寄らせたり、集めたり、教師が準備して材料コーナーを工夫した。自由な発想で試せるようになる。下記の表は、準備したものと、幼児のつぶやきである。いろいろな材料と関わる中で、いろいろな表現をしている。どの表現もそれぞれの子供たちの「よさ」と捉えているので認める。

<p>ストロー 「ブクブク合 体だ」 「アイスクリ ーム シャボン玉だ」</p> <p>言葉で表現・素材の工夫</p>	<p>ペットボトル 「大きいシャボン玉作 りたいから、ペット ボトルを切ろう」</p> <p>素材の工夫</p>
<p>牛乳パック 「へびさんみたいなシャボン玉だ」 ぐにゃぐにゃシャボン玉だ」</p> <p>言葉の表現・しぐさで表現</p>	<p>ざる 「うわーすごい 小さいのがいっぱい」 「100個ぐらいあるよ」</p> <p>言葉で表現・素材の工夫</p>

環境の再構成 ☆やりたい子が増えてきたので、テーブルを一つ増やす。☆トイレットペーパーのしんは何回もやると、破れてしまうことがわかり、牛乳パックを使う子が多くなり、一緒に探す

【考察】

その後の展開では、その材料を生かしたあそびが見られた。幼児は身の周りにある様々な材料に触れたり、思ひぬ使い道をしながら、幼児らしい表出を楽しんでいた。シャボン玉を吹く材料としてとらわれず幼児のイメージに合わせて取り入れてきたことが、より様々な発想を引き出す環境構成となった。そして、幼児の思いや願いを受け止め、材料、用具、場所等を考えてきたことが、幼児が「〇〇を使ってやってみたい」という欲求を満足させたと思う。幼児の動きに合わせて、環境構成する中で「今度はこんなことをしたい」「どうなるのか」「明日もやりたい」と取り組んだ遊びに満足感を得る援助が大切であると感じた。

(3) 視点③の検証 一人一人のよさや可能性を生かす援助 検証保育と検証保育以外で

一人一人のよさを生かす場面・・・学級全体が集まつた時、これまでのシャボン玉のことで子供たちからの「よさ」を引き出すことにした。

(朝のひととき)

- ①話し合いの場を設定する
- ②よさを認め会える場にする
- ③友達や保育者の話しから自分のよさに気づく場



- ★ 教師の援助
- ★ シャボン玉遊びに参加していない幼児もいるので、全体の中で話し合いをして意識づけをする。
- ★ 一人一人のよさを紹介し、周りの子も認める言葉かけをする。
- ★ 子供同士でも認め合える雰囲気づくりをする。
- ★ 話し合いの時、友達の意見しっかり聞き、そのよさを発見できるようにする。

T：「Z H男はいろいろなやり方でやっていたね。」

N T男：「Z H男はいろいろなことができるよな。
だから遊ぶと楽しいよ。」



友達のよさに気づいている

T：「M T男がZ H男みたいにやつたら、できた
んだよね。喜んでいたね。自分から『やりたい』
ときたんだよね」 M T男：笑ってうなづく



自分のよさに気づいている

T：「年少さんに
『つよく・ゆっくり・やさしく
吹くんだよ』って教えていたんだってね。」
H A子：「わたしもできなかつたけど
こんなにしたらできたよ。」
M子：「教えるの上手だね。」
K K子：「やさしいね。」



- ・友達のよさに気づく
- ・自分のよさに気づく
- ・年少さんに対して、思やりの心をもって接することができる。

T：「いろいろなものを使ってシャボン玉吹いたね。
割り箸でもできるってホント！割り箸のシャボン玉つ
てはじめて。N K男の考えおもしろいね。先生もやつ
てみよう」
N K男：「できるよ。」



- ・友達のよさに気づく
- ・意欲
- ・期待
- ・自信につながる

【考察】

K K子やM N子やN T男との言葉から、友達のいいところに気づいているのが伺える。素直に友達のいいところを認め言えるのもいい。それは、仲間とのつながりができているからだと考えている。上記のような活動を振り返る場を設定することで、互いのよさや表現の工夫を認め合い、感じたことを周りの友達と共有することができたことは、自信と意欲につながったと捉えている。そこで、教師の適切な援助・仲立ちがあると周りの友達とそのことを共有することができる。同時に様々な表現に触れ、友達の表現の姿が自分とは違うことを知り表現の幅を広げることができたのではないかと思われる。

V 研究の成果と今後の課題

1 成果

- (1) 幼児一人一人の行動を読みとり、発想を認め援助することで、やりたいことを追求するようになった。
- (2) いろいろな場面で、発見したり、試したり、工夫したり、追求したり等、幼児一人一人がその子らしさを表現するようになった。その子なりの表現を大切にすることによって友達のよさや自分のよさに気づき、満足感や充実感を味わい、更に自己発揮する土台となった。

2 今後の課題

- (1) 幼児一人一人のもつ「よさ」が生かされ、更に発揮される場の設定を考える。
- (2) 自分の存在や行動が認められている時に発揮する姿がみられるので、行動を生かす援助の工夫をする。
- (3) 教育課程への位置づけ

（主な参考文献）

- 小田 豊・神長 美津子 「新幼稚園教育要領の解説」 第一法規
黒川 健一郎 「表現」 ひかりのくに

1999年
1990年